

今、日本から始まる がん撲滅への秘策！
～超早期発見と先端医療社会の構築～

東日本大震災復興5周年・熊本地震復興支援

がん撲滅サミット 2016

<http://cancer-zero.com>
参加無料 (HPご覧ください)

平成28年10月22日(土)

開演 14:00【開場 13:30】

会場 パシフィコ横浜 国立大ホール

主催 | がん撲滅サミット2016実行委員会・NPO法人がん撲滅サミット事務局

共催 | 第54回日本癌治療学会学術集会

後援 | 厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、日本医療研究開発機構、横浜市、
がん撲滅横浜市会議員連盟、日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所、
日本製薬団体連合会、日本建設業連合会、生命保険協会、日本損害保険協会

がん撲滅サミット 2016

高円宮妃殿下お言葉

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

本日は第一回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとうかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんに蟹(かに)を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り広げていく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます。お身内にがん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場にたって考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療にはみなアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

<がん撲滅サミットHPより>

PROGRAM

- 14:00-14:20 **来賓ご挨拶並びにご紹介**
- 14:20-14:40 **開会宣言(会長講演)**
放射線による腫瘍免疫の増強～放射線が免疫力をアップする!?
大会長 鈴木 義行 氏
- 14:40-15:00 **学術講演**
先端がん医療の未来と東北の復興
福島県立医科大学理事長特別補佐/先端臨床研究センター センター長 竹之下 誠一 氏
- 15:00-15:20 **文化講演**
東日本大震災を乗り越えて
福島県相馬市長 立谷 秀清 氏
- 15:20-15:40 **文化講演**
リアル下町ロケット～血液1滴3分間! がん判定チップ開発秘話
有限会社マイテック 長谷川 克之 氏/長谷川 裕起 氏
- 15:40-16:00 **スペシャル講演**
がん医療に対する日本政府の取り組み 2016
内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 氏
- 16:00-16:20 **スペシャル講演**
がん対策加速化への道
厚生労働事務次官 二川 一男 氏
- 16:20-16:25 **休憩**
- 16:25-17:00 **がん撲滅への期待!**
患者やご家族の皆様からのがん撲滅への「期待メッセージ」、「激励」、「提言」、「悩み」、「ご質問」を会場の医師の方々と共有する時間が始まります!
今回は拳手ではなく「がん撲滅サミット」ホームページよりダウンロードいただいた入場チケット(参加申込書)に、上記のメッセージなどをご記入いただき受付にてお渡しく下さい。
- 17:00 **閉会の辞**
「横浜宣言 2016」
- エンディング**
日本癌治療学会・会員有志オーケストラによる演奏「ガーランドワルツ」
「花は咲く」

がん撲滅サミット 2016

大会長挨拶



鈴木 義行

がん撲滅サミット2016 大会長
福島県立医科大学医学部・放射線腫瘍学講座 主任教授

この度は、がん撲滅サミット2016 開催にあたり、ご支援、ご来場いただき誠にありがとうございます。

団塊の世代がいわゆる「がん年齢」に到達しつつあること、また、高齢者人口の増加に伴う悪性腫瘍(がん)の罹患者数の増加などから、悪性腫瘍(がん)による総死者数は増加の一途をたどっております。

しかしながら、意外に感じる方も少なくないかと思いますが、悪性腫瘍(がん)の死亡率(年齢調整)は、医学の進歩による治療法の改善や早期発見の増加により、女性では約50年以上も前(1960年代)から、男性でも約20年も前(1990年代後半)からほぼ一貫して減少しており、今後も治療成績はさらに改善していくと推測されています。現在では、単に治るだけの治療でなく、負担や苦痛がより少ないがん治療法の開発が進んでいます。

がん治療のさらなる改善を目指し、本日、第54回日本癌治療学会学術集会と共催で「がん撲滅サミット2016」を開催させていただきます。

来賓よりご祝辞を頂いた後、大会長による開会宣言、そして東日本大震災復興5周年記念企画として、竹之下誠一・福島県立医科大学先端臨床研究センター長による学術講演、立谷秀清・福島県相馬市長による文化講演、有限会社マイテック・長谷川克之氏・裕起氏による「リアル下町ロケット～血液1滴3分間！がん判定チップ開発秘話」などが予定されています。

また、政府の成長戦略の要である和泉洋人・内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生並びに健康・医療に関する成長戦略担当)、および二川一男・厚生労働事務次官によるによるスペシャル講演が行われます。

この他、がん撲滅への期待！、そして、「横浜宣言2016」を誓ったのち、最後に、日本癌治療学会・会員有志オーケストラによる東日本大震災の被災地復興支援ソング「花は咲く」の演奏後、閉会となる予定となっております。

皆様には実りあるお時間を過ごしていただけますよう準備を重ねて参りました。どうぞごゆっくりお過ごしください。



安倍 晋三

内閣総理大臣

がん撲滅サミット2016の開催、おめでとうございます。はじめに、医学の進歩に向けた皆様の毎日の取組に対して、心より敬意の念を表したいと思います。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類誰もが願う長寿社会を現実のものとしてまいりました。一方、我が国は、欧米諸国、アジア諸国に先駆け、地球規模課題の一つである超高齢化に直面しており、健康長寿社会を実現することが大きな課題となっています。

このため、政府は、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸に努めているところです。具体的には、昨年4月に設立された「国立研究開発法人 日本医療研究開発機構」を医療分野の研究開発の中核組織として、基礎から実用化まで切れ目ない研究支援を一体的に行っています。

がん対策については、「がん対策推進基本計画」に基づき策定された「がん研究10か年戦略」を踏まえ、健康・医療戦略推進本部の方針の下、がん研究の総合的かつ計画的な推進に全力で取り組んでいくこととしています。

また、昨年12月に「がん対策加速化プラン」を策定し、①がんの予防(がん検診、たばこ対策等)、②がんの治療・研究(ゲノム医療、小児がん・希少がん等)、③がんとの共生(就労支援、緩和ケア等)といった取組を一層進めることとしており、がんを克服し、活力ある健康長寿社会を確立していきたいと考えています。

最後に第2回を迎えた本会合がご参加の皆様にとって実りあるご議論の場となることを期待いたしまして私のメッセージといたします。

がん撲滅サミット 2016

内閣官房長官メッセージ



菅 義偉

内閣官房長官

がん撲滅サミット2016の開催を心よりお慶び申し上げます。はじめに、医学の進歩に向け、日々、がん治療、がん研究に取り組んでおられる関係者の皆様の取組に対して心より敬意を表します。

がんは、我が国の死亡原因第1位であり、特に、現役世代の死亡原因の4割を占めています。また、小児においても病死原因の1位ががんとなっています。こうした状況を踏まえ、政府としてもがん撲滅に向けた取組を積極的に推進しているところです。

平成26年に、健康・医療に関する先端的研究開発や新産業創出に関する施策の方針などを内容とする「健康・医療戦略」と「医療分野研究開発推進計画」を策定し、同計画において、基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐ重点プロジェクトの一つの柱として、がん研究が位置付けられています。

昨年設立された「国立研究開発法人 日本医療研究開発機構」を中心に、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の三省と連携して研究開発を推進しており、新たな治療法（免疫療法、ウイルス療法）の研究が進むなど、着実に成果が見られているところです。

今後も、がん研究をはじめとして、健康長寿社会実現に向けた多くの施策を通じ、国民が健康で安心して暮らせる社会、医療体制を構築すべく努めていきたいと考えています。



塩崎 恭久

厚生労働大臣

本日ここに、「がん撲滅サミット2016」が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

昨年に引き続き、2回目のがん撲滅サミットが盛大に開催されますことについてお祝い申し上げますと共に、開催にご尽力された関係者の皆様に心より敬意を表します。

我が国では、放射線療法や化学療法、手術療法といったがん医療の目覚ましい進歩により、がん患者の5年相対生存率は約10年で10%近く改善し、ついに60%を超えました。これは、現場の医療者や研究者の方々のご尽力によるものです。

しかし、依然としてがんは我が国の死亡原因の第1位であり、国を挙げてがん対策に取り組む必要があります。昨年12月には「がん対策加速化プラン」を策定し、「予防」「治療・研究」「がんとの共生」を3本柱として、がん対策をより一層推進しております。

こうした中、私は厚生労働大臣として、去る9月19日にニューヨークにて開かれた日米韓保健大臣会合に参加してまいりました。この会合は、「がん撲滅ムーンショット・イニシアチブ」を掲げるバイデン副大統領の呼びかけにより実現したものであり、日米韓3カ国が協力し、「がんに終止符を打つ」ための研究開発を推進することで合意しました。

会合では、私からもスピーチを行い、日米韓の協力の中で、我が国として、臨床・ゲノム情報や人工知能を集積したゲノム医療拠点の整備、ビッグデータに基づく患者の皆さん個人個人に最も適した治療の実現などに全力で取り組むことを表明してまいりました。

本サミットが「超早期発見と先端医療社会の構築」をテーマに開催されることは大変意義深いものであり、厚生労働省としましても、皆様の活動を心強く感じるとともに、皆様と協力して、国民の視点に立ったがん対策を進めていきたいと考えています。

最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの発展、御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

がん撲滅サミット 2016

元復興大臣メッセージ



根本 匠

元復興大臣・衆議院議員

「がん撲滅サミット2016」の開催、誠におめでとうございます。

昨年の初のサミットから1年。さらに規模を拡大して開くことができたのは本当に素晴らしいことだと思います。患者や家族の方々、医療従事者、経済団体、マスメディアが一堂に集まり、がん撲滅に向けて誓いをあらたにする機会を得られることは非常に有意義で、開催に向けてご尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。

これまで私は一貫して厚生分野への取り組みを最重要の政治課題としてまいりました。東日本大震災を経験し、かけがえのない地元である福島県を医療の先進地域とするとの決意も抱きました。

御承知のとおり、がんは、依然として、我が国の死亡原因の第1位ではありますが、医療技術はめざましい進歩を遂げています。放射線療法や化学療法、手術療法など現場の医療者や研究者の方々のご尽力のお陰で、2006年から2008年にがんと診断された方の5年相対生存率は約60%になりました。この10年程度で実に10%ポイント近く改善しているのが実態です。

最近では、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんの妻の小林麻央さんが、乳がんを抗がん剤治療中であることを公表されました。まだ若い女性が家族の全面的なサポートを受け、前向きにがんと闘う姿勢に多くの方々も勇気づけられています。

「がん撲滅」という言い方は高い目標かもしれませんが、でも、こういう数字をみると、やはり一歩一歩、着実に我々は進歩を続けていけると信じています。がん研究は「がん研究10か年戦略」に基づいて推進していますが、政府はがんの解明に関する研究をはじめとして、予防や早期発見の手法の追求など、医療技術の高度化、実用化を目指したがん研究をさらに進める方針です。

こうした「がん撲滅」への取り組みの大きな支えとなるのが、本サミットです。現場の医療者や研究者をはじめとしたご参加の皆様方の活発なご議論を経て、「がん撲滅」目標の達成に近づくことを、心より願っております。

最後に、本サミットがお集まりの皆様にとって実りのある場となるとともに、今後の益々の御発展、御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



岡本 園衛

日本経済団体連合会副会長
日本生命保険相互会社代表取締役会長

この度、「がん撲滅サミット2016」が開催されますこと、お喜び申し上げます。また、がん撲滅に向け立ち上がり、当サミット開催を実現された、事務局や実行委員会等の関係者の皆さまに対して、心より敬意を表したいと思えます。

今年の年間のがん罹患数は、高齢化の影響で、初めて100万例を突破する見込みとなっています。一方で、先般発表されたがんの治癒目安とされる5年生存率は、3年前の調査から男女ともに改善し、3.5ポイント上昇の62.1%に達したとのことで、これらは医療関係者の皆さまの常日頃からの努力の賜物であり、今回のサミットが掲げる「超早期発見と先端医療社会の構築」への取組みに対する着実な成果の表れだと思えます。

また、先月、日米韓3カ国による保健相会合が初めて開催され、がん治療研究や早期発見技術での連携強化が図られる等、国際的にも協力体制が構築されつつあることを大変心強く思うと共に、これまで以上に私たち一人ひとりの行動が、重要性を増してくるのではないかと感じております。

経団連では、昨年度から「健康経営の推進」を事業方針に掲げ、従業員の健康増進の実現に向けた取組みを進めています。具体的には、生活習慣病の予防やがんの早期発見を目的とした従業員向けの健康イベントや、禁煙・がん検診の促進、検診後の精密検査フォロー、レセプトデータを活用した健康指導等、幅広く取組み事例を公表し、共有化することにより、各社での実効性の向上や定着を目指しています。

各業界においても、健康をテーマとした展示会を共同で開催する等、経済界では、様々な形で健康経営の推進に本気性を持って取り組んでいます。健康経営は、従業員個人の生活の質の向上のみならず、企業活力を高める上でも重要であり、今後一層力を入れていく必要があると思えます。

我々生命保険業界では、従来から、入院や手術、抗がん剤治療等にかかる費用だけでなく、入院準備にかかる費用や、入院中・治療期間中の生活費等にも備えることが可能ながん保険や医療保険を提供し、「がんに向き合い、克服する」患者の方々のサポートをさせていただいております。

がんの予防面においても、各企業が様々な取組みをされていますが、一例として、日本生命では、一部の自治体との間で協定を結び、営業職員によるお客様へのがん検診リーフレットの配布を通じて、受診を勧奨する取組みを始めております。

がん撲滅に向けては、医療関係者だけでなく、当サミットが提唱しているとおり、オールジャパンで立ち向かう必要があると思えます。国や地方自治体は予防、啓発に全力を挙げて取り組んでおられますが、我々経済界としても、何が出来るのかを意識し、皆さまと手を携えながら、共にがんに向き合い、大きな運動にしていきたいと思えます。

がん撲滅サミット 2016

横浜市長メッセージ



林 文子

横浜市長

「がん撲滅サミット2016」が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。昨年に続き横浜で開催していただき、誠にありがとうございます。

お集まりの皆様は、日頃から、がん治療の臨床と研究に携わられ、がん撲滅に向けて取り組んでいらっしゃいます。市を挙げて、皆様を歓迎いたします。

横浜市は、「横浜市がん撲滅対策推進条例」に基づき、「総合的ながん対策事業」に取り組み、患者ご本人やご家族への支援、がん研究の支援など、様々な施策を進めています。

市域のがんに関する医療実態を把握するため、国が保有するNDB（ナショナルデータベース）の提供について申出を行い、先日、全国の基礎自治体で初めて国から承諾を得ました。今後、横浜市立大学の臨床統計学教室と連携して分析を進め、具体的なデータに基づく施策を展開し、総合的ながん対策の一層の充実を図っていきます。

またサミット会場周辺では、サミット開催にあわせ、がん啓発シンボルカラーであるラベンダー色のライトアップを10月20日から実施しています。今後もお参加の皆様と手を携え、がん撲滅に向けて力を注いでまいります。

むすびになりますが、このたびのサミットを通じて実り多い議論が交わされますこと、そして大変意義深い本サミットが今後も継続的に開催され、がんと闘う患者様、ご家族の皆様の希望となることを願います。

ご参加の皆様のご発展、がん医療のさらなる進化を、心より祈念申し上げます。

がん撲滅横浜市会議員連盟会長メッセージ



田野井 一雄

がん撲滅横浜市会議員連盟会長

「がん撲滅サミット2016」の開催、誠におめでとうございます。

昨年に続き、本サミットが盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

横浜市会は、平成18年11月、超党派の議員で「がん撲滅横浜市会議員連盟」を発足させました。その目的は、「がんの撲滅を目指し、がんの予防、早期発見、全ての市民が適切ながんに係る医療を受けられるようにするための総合的な対策をさらに推進していくこと」であり、高度先進医療施設の視察、がん対策をテーマとした勉強会、毎年行われるリレー・フォー・ライフへの参加などの活動を続けております。

そして、平成26年10月1日に施行された「横浜市がん撲滅対策推進条例」の制定に当たっては、これまでの活動を通じてがん患者やサバイバーの方々と向かい合ってきたこの議員連盟を中心に徹底的に議論を重ね、市会議員全86名により議案が提出され、可決されました。

条例の提案に先立ち、幅広く市民の皆様の御意見を参考とするため、市民意見の募集を行いました。条例の趣旨に御賛同をいただくもの、御自身や御家族の体験を述べられ、具体的な提案をされているものなど、市民の皆様のがんに対する切実な思いの込められた様々な御意見をいただきました。

特に、がん撲滅という名称については、「力強い名称でよい」、「実際には撲滅はあり得ない、言葉が強過ぎる」という賛否両論それぞれの立場の御意見をいただきました。条例案を議論する過程においても、「科学的にはがん撲滅は不可能であり、ハードルが高過ぎる」という意見もありました。

しかし、「がん撲滅横浜市会議員連盟」という名称に込められた、何としてもがんによる死亡者を無くしたいという精神を反映し、また、身近な人をがんで亡くされた方々の、がんを撲滅してもらいたいという強い思いを受けとめ、力強い名称としたいということから、「横浜市がん撲滅対策推進条例」という名称とさせていただいたところでございます。

「がん撲滅サミット」も、がん撲滅をテーマにオールジャパンで前進しようという理念のもとに始まったと伺っておりますが、まさに、同じ思いであります。

最後になりますが、本サミットが、がんと向かい合う全ての関係者のより強力な支えとなることを願ひまして、私の挨拶とさせていただきます。

がん撲滅サミット 2016

熊本県知事メッセージ



蒲島 郁夫

熊本県知事

本日、がん治療の更なる改善を目指し取り組まれている関係者の皆様のご尽力により、がん撲滅サミット2016が盛大に開催されますことをお祝い申し上げます。また、この度の熊本地震災害に対しまして、多方面から多大なご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本県の死亡原因の1位は“がん”であり、約4人に1人の方ががんで亡くなっている現状にあります。

そのため、県では「がん患者を含む県民が、がんを知り、がんと向き合い、共に支え合う社会」を目指して、がんの予防・早期発見、がん医療の均てん化、がん患者や家族の療養生活の質の維持向上を掲げ、様々な施策に取り組んでおります。

これらの取組みを通じて培われた、がん診療連携拠点病院等における医療従事者の方々の強い連帯の力が、今回の熊本地震においても遺憾なく発揮され、被災された医療機関の多くの患者の命を救うことにも繋がったと考えています。

例えば、地震後のがん患者の受入れ情報について、都道府県がん診療連携拠点病院である熊本大学医学部附属病院が中心となり、国指定8と県指定の11のがん診療連携拠点病院における情報を集約し、各拠点病院のがん相談員を中心に共有されました。さらに東京の国立がん研究センターの協力でホームページ上で広く周知していただいたことにより、県内外のがん診療連携体制が機能し、急場での対応力を飛躍的に向上させることができました。

さて、現在の熊本地震の状況をご報告いたしますと、発災から約3ヶ月半の8月3日に「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」を策定しました。

復旧・復興にあたっては、「被災された方々の痛みを最小化する」、「単に元あった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す」、「復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる」という復旧・復興の3原則を基本とし、蒲島県政の原点に立ち戻り、「県民の総力を結集し、将来世代にわたる県民総幸福量を最大化する」ことを基本理念に、復旧・復興に取り組んでいます。

熊本地震からの復旧・復興の道のりは長く、決して平坦ではありませんが、県民が心をつなげて、一日も早い被災者の生活再建と被災地の創造的復興に向けて、たゆまぬ努力を行って参ります。

最後になりますが、本日のサミットが、お集まりのがん患者、その家族、医療者を初めとするその支援者の皆様にとって、大きな“つながり”となり、がん撲滅への希望の光となりますよう、お祈り申し上げまして、メッセージといたします。

第54回日本癌治療学会学術集会 会長メッセージ



中野 隆史

第54回日本癌治療学会学術集会 会長

今回、がん撲滅サミットとの共催でこの公開講座をパシフィコ横浜で開催することができましたことは、大変うれしく思います。

私は大会長として第54回日本癌治療学会学術集会を開催させて頂いており、本日で3日目になりますが、本大会では、メインテーマとして「成熟社会における、がん医療のリノベーション」を掲げ、「生きがいに寄り添うがん診療」、「人にやさしい先端がん治療」、「社会を支えるがん治療」のサブテーマを設定しております。

皆様ご承知のとおり、がん死亡者数は1981年に死亡原因の1位に躍り出て以来、年々増加しており、最近では二人に一人が、生涯のうちでがんに罹患するという状況となり、日本全体でがんと闘っていかなくてははいけません。がん対策は国民衛生上の喫緊の課題となっています。この間、日本社会も高度経済成長を基盤とした成長社会から、人生の質が重視される成熟社会へと移行してまいりました。そして、がん医療に対する考え方にもまた変化が起きております。かつて、がん医療では如何に生産世代の患者を救済するかを重要視した時代から、現代は、単に延命だけではなく、治療後のQOLの向上や患者さんへの心理面のサポート、セルフケア教育、社会復帰支援など包括的ながん医療が強く求められています。

こうした中、私の専門分野の放射線治療においても、画像誘導放射線治療、強度変調放射線治療 (IMRT)、陽子線治療、重粒子線治療などの発展により、放射線治療は生活機能を温存可能な治療方法の一つとして、がん医療への貢献度を増しております。一方、外科療法の内視鏡手術やロボット支援手術に代表されるような技術革新や薬物療法における分子標的薬、免疫療法などの登場によって、治療後のQOLを重視した低侵襲手術、機能温存手術、personalized医療やprecision医療が飛躍的に発展しています。

さて、今年のがん撲滅サミットは「東日本大震災復興5周年・熊本地震支援」として、「超早期発見と先端医療社会の構築」をテーマにしており、東北復興にご尽力しておられる福島県立医科大学や日本の最先端癌治療技術をお持ちの医師のお話に加えて、政府のがん対策推進のまさに中枢の内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人様や厚生労働事務次官 二川 一男様の日本のがん対策におけるお話を聞けることは大変貴重な機会でもあり、この企画をされた大会長の鈴木義行教授ならびに代表顧問の中見利男様には敬意を表する次第です。

最後になりますが、市民公開講座によりがん撲滅サミットを広く市民に開かれた場とし、現代のがん医療の着実な成果と、近未来の諸課題について日本の学術政策各分野の第一人者の方のお話しをお聞きし、市民の皆さんと語り合うことができたら幸いです。

がん撲滅サミット 2016

追悼文

さかた なつ の 天国の坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

がん撲滅サミット代表顧問 中見利男



2016年10月22日、がん撲滅サミット2016のステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かってエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃(さかた なつ)さんが、その人です。平成13年3月26日生まれのお坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

昨年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思います」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんを闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

昨年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は「私のものはいいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合せました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの?」と聞いても、「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に一本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張るね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなで選んで送るからね」

その後、そのアーティストとメンバーが皆で坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのために選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の今年2月6日、闘病の末、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、光明院天心桜華清童女。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、彼女が2015年6月9日に開催された、第1回がん撲滅サミットに寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いんです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさん不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。でも

がん撲滅サミット 2016

追悼文

中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私はお金のことで家族のサポートのことで、よい環境で治療を受けることができた、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができます。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいて、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことで困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしなくていいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖父母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田捺乃

以下はご両親からいただいたがん撲滅サミット2016へのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり半年余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過ごしています。

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々でしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢を叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。



すずき よしゆき
鈴木 義行 大会長／福島県立医科大学医学部・放射線腫瘍学講座 主任教授

平成7年、群馬大学医学部を卒業し、群馬大学医学部腫瘍放射線学(旧・放射線医学)講座入局。放射線腫瘍(治療)学・放射線生物学の診療・研究に従事。

平成13年医学博士号、平成14年日本医学放射線学会専門医取得。平成15年米国マサチューセッツ総合病院／ハーバード大学医学部に文部科学省長期在外研究員として留学。平成19年より群馬大学医学部腫瘍放射線学講師、平成23年より同・准教授(兼・重粒子医学研究センター准教授)を経て、平成26年より現職。

平成26年、放射線腫瘍学に関する一連のトランスレーショナル研究の業績にて、日本放射線腫瘍学会・阿部賞を受賞。基礎研究から重粒子線治療を含む最先端放射線治療、更にはIAEAなどを通じた国際協力活動など、オールラウンドに活躍する我が国の放射線治療を牽引する医師である。



たけのした せいいち
竹之下 誠一 福島県立医科大学理事長特別補佐／先端臨床研究センター センター長

昭和26年3月10日生まれ 鹿児島市出身

略歴

1975年 群馬大学医学部卒業、群馬大学医学部第一外科へ

1980年 国内留学 社会保険中央総合病院

1990年 群馬大学医学部第一外科講師

1992年 群馬大学医学部第一外科助教授

1994年 米国 国立ガンセンター NIH/NCI 留学

1999年 福島県立医科大学外科学第二講座教授

2008年 公立大学法人福島県立医科大学附属病院長

本学附属病院長として本学の都道府県がん診療連携拠点病院認可に尽力し、福島県がん診療連携協議会委員長として県内関連病院のがん診療の質の向上に努めた。

2010年 公立大学法人福島県立医科大学副理事長・器官制御外科学講座主任教授

2014年 公立大学法人福島県立医科大学理事(復興担当)

器官制御外科学講座主任教授

2016年 公立大学法人福島県立医科大学理事長特別補佐

先端臨床研究センター センター長

学位・賞罰

1984年 医学博士『大腸がんの組織内ポリアミンに関する生化学的研究』

1998年 シーボルト・メダル賞 受賞

がん撲滅サミット 2016

講演者プロフィール



たちや ひできよ
立谷 秀清 福島県相馬市長

昭和26年6月福島県相馬市生まれ。昭和52年3月福島県立医科大学医学部卒業、同年6月医師免許取得。東北大学医学部付属病院、公立相馬病院（現：公立相馬総合病院）勤務後、昭和58年4月立谷内科医院開設。昭和61年12月医療法人社団茶畑会立谷病院（現：相馬中央病院）理事長就任。平成7年4月から福島県議会議員に就任。その後、平成14年1月相馬市長就任、現在4期目。

現在、全国市長会副会長、福島県市長会会長、東北地方港湾整備促進協議会会長、道路整備促進期成同盟会全国協議会副会長、東京農業大学・同短期大学客員教授、全国医系市長会会長、低炭素な地域づくりに取り組む首長の会会長、教育再生首長会議副会長、一般社団法人社会的包摂サポートセンター（「寄り添いホットライン」）理事等を務めている。趣味はカメラで全日本写真連盟の会員。



はせがわ かつゆき
長谷川 克之 有限会社マイテック

1960年兵庫県生まれ。

広範囲分野の研究を独学で始め、独創的な発想で数多く世界初の研究開発に成功する。プラズモン物質（三次元自己組織化）「量子結晶」・「過酸化銀メソ結晶」を発見。成果は国内のみならず、世界各国の報道機関で配信されており、開発した世界初のバイオチップで、「がん超早期診断」による「がん撲滅社会」を目指している。

平成23-24年 「NEDO・SBIR 技術革新事業」採択

平成23年12月 池田泉州銀行ニュービジネス助成金「地域起こし奨励賞」受賞

平成26年10月 第34回（公益財団法人）日本発明振興協会 発明研究奨励金受賞



はせがわ ゆうき
長谷川 裕起 有限会社マイテック

1987年兵庫県生まれ。

大学在籍中に両親が経営するマイテックの研究に参加する。

プラズモン物質（三次元自己組織化）「量子結晶」・「過酸化銀メソ結晶」を発見。

成果は国内のみならず、世界各国の報道機関で配信されており、開発した世界初のバイオチップで、「がん超早期診断」による「がん撲滅社会」を目指している。

平成23-24年 「NEDO・SBIR 技術革新事業」採択

平成23年12月 池田泉州銀行ニュービジネス助成金「地域起こし奨励賞」受賞

平成26年10月 第34回（公益財団法人）日本発明振興協会 発明研究奨励金受賞



いずみ ひろと
和泉 洋人 内閣総理大臣補佐官、内閣官房健康・医療戦略室室長

昭和51年建設省入省、内閣官房都市再生本部事務局次長、国土交通省大臣官房審議官、国土交通省住宅局長、内閣官房地域活性化統合事務局長、内閣官房参与(国家戦略担当)を経て、現在、内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生並びに健康・医療に関する成長戦略担当)。政策研究大学院大学客員教授を兼任。

平成13年度工学博士取得(東京大学)、平成13年度都市住宅学会論文賞(「地区計画策定による土地資産価値増大効果の分析」、平成16年度都市住宅学会及び不動産学会著作賞(「容積率緩和型都市計画論」単著平成14年1月信山社)。

所属する学会には都市住宅学会、不動産学会、法と経済学会、地域活性学会がある。



ふたがわ かずお
二川 一男 厚生労働事務次官

昭和55年 3月 東京大学法学部 卒業
昭和55年 4月 厚生省入省
平成24年 9月 厚生労働省大臣官房長
平成26年 7月 厚生労働省医政局長
平成27年10月 厚生労働事務次官

がん撲滅サミット 2016

横浜宣言 2016

我々は「がん撲滅」に向けて戦略的に行動を開始いたします。今や国民の2人に1人が罹患し、3人に1人が亡くなるといわれるがんは、国民病そのものです。がんによる死者数を低下させ、全国69万人と言われるがん難民をゼロにする。そのために全国民が願う最善のがん医療社会構築を実行して参ります。

我々は具体的に3つの戦略があります。

一つは、「がんの早期発見社会の構築」です。早期発見技術の実用化を後押しすることで、がんの早期発見・治療による完全社会復帰と、生き生きと健康に生きてゆくことのできる社会を作り上げて参ります。

二つめは、「患者に合わせた最善のがん治療とチーム医療の充実した社会の構築」です。がん医療は今や日進月歩です。現在の標準治療に免疫療法などの新たな治療法を組み合わせ、かつ患者様一人一人に合ったベストミックス療法の開発を加速化し、日本の「がん医療」を世界のリーダーに押し上げて参ります。

そして三つめは、「がん難民のいない社会の構築」です。新たな治療法の開発、現状の治療法の改善を加速し、がん患者の皆様が治療をあきらめる必要のない、希望を持ち続けられる社会の形成を後押しして参ります。

こうした戦略の目指すところは、がん撲滅そのものです。これまでのがん患者、家族と医師だけの闘いから、皆様をはじめオールジャパン体制でご協力のもと、がん撲滅を成し遂げるその日まで、われわれは勇気と忍耐力を以て挑戦し続けることを、ここ横浜の地で宣言いたします。

「がん撲滅サミット 2016」の盛会をお祈り申し上げます。



医療法人 羅寿久会 浅木病院

院長 三好 安

神経内科 リハビリテーション科 内科

介護サービス

通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所
訪問看護・訪問介護・訪問リハビリテーション

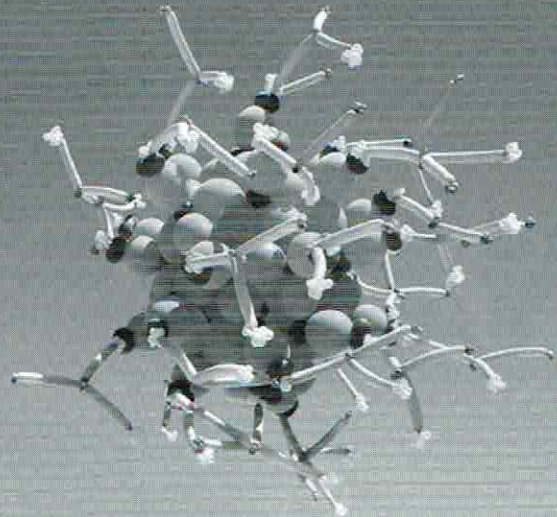


〒811-4312 福岡県遠賀郡遠賀町浅木二丁目30番1号

TEL : 093-293-7122 URL : <http://www.asagi-hospital.or.jp>

あるはずがない
を超えたところに、ある。

これまで存在しなかった
新薬をつくり出すまでの道のりは、
膨大な実験の積み重ねに支えられている。
だがどの道を進むのかという
「アプローチの発見」においては、
ユニークな発想とアイデアが、求められる。
常識の枠にとらわれず、
かつてないアプローチをとったものだけが、
あるはずがないと思われていた成果を生み出す。



創薬は、クリエイティブ。

すべての患者さまのために

創薬で、想像を超える。



中外製薬

Roche ロシュグループ

生命保険協会は

国民生活を守り、長寿社会を支えていくために
様々な取り組みを進めています。



相談・苦情受付

【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



高齢者への情報提供

【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。

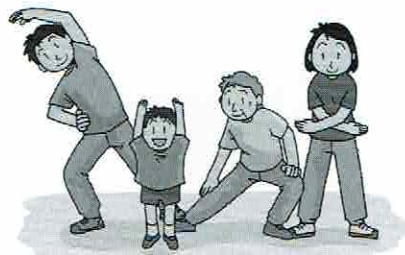


特殊詐欺の注意喚起

【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

健康増進啓発活動



【健康増進啓発プロジェクトの実施】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、「健康増進啓発プロジェクト」を展開し、その一環として、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、生命保険協会オリジナル健康アプリ「健増くん」の周知活動や、情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、
様々な情報を掲載しています。
是非ご活用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索



まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。

www.astellas.com/jp/

 **astellas**
Leading Light for Life
アステラス製薬

なによりも患者さんのために

沢井製薬

 **大日本住友製薬**

 **シオノギ製薬**

 **LINKHEALTHCARE**



岡山県極真空手道連盟



“がん”は切っても捨てるな！

そのわけは、
— <http://cell-medicine.com>

 “自家がんワクチン”の
セルメディシン株式会社です

届けたいのは「いのち」と
つながるお水です。

ミネラルウォーター

月のしずく

天然温泉 **ゆのさと**

〒649-0086 和歌山県橋本町神野々898
TEL 0736-33-1126 FAX 0736-34-2326
公式ホームページ www.spa-yunosato.com



〈2016年10月5日現在。順不同〉

販売名:尿流量測定器 UM-100
 一般的名称:尿流量トランスデューサ 36799000
 届出番号:40B1X10001000002



水洗トイレで尿量測定



尿量測定は、腎臓機能評価や周期期の輸液管理、科学療法時の尿量確保などを目的に多くの入院病棟で行われています。しかし従来はカップによる全尿採取が必要であり、患者様にとって負担のある検査でした。TOTOの尿量測定装置フローズカイは、いつものようにトイレで排尿するだけで尿量測定が行なえます。カップ洗浄・管理が不要になりますので、患者様や看護師様の負担軽減に繋がります。



●装置を使用する前に取扱説明書を読み、安全に関する注意事項をご理解の上でご使用ください。

協賛企業・団体、寄付者一覧

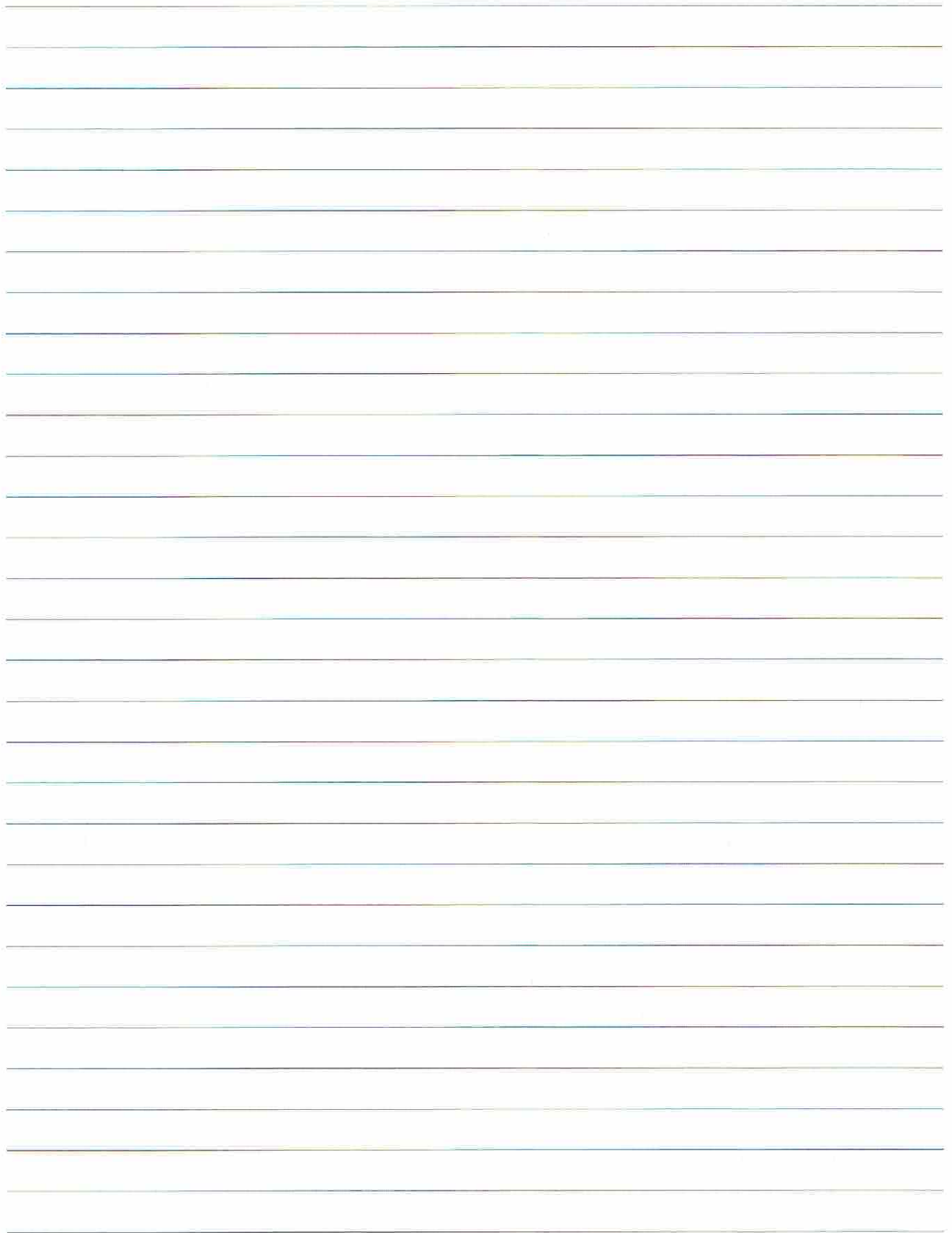
生命保険協会様
日本損害保険協会様
TOTO株式会社様
医療法人羅寿久会 浅木病院様
中外製薬株式会社様
アステラス製薬株式会社様
大日本住友製薬株式会社様
塩野義製薬株式会社様
沢井製薬株式会社様
グラクソ・スミスクライン株式会社様
リンク・ヘルスケア株式会社様
株式会社重岡様
セルメディシン株式会社様
アイング株式会社様
岡山県極真空手道連盟様
株式会社花枝保険事務所様
銀座並木通りクリニック様
大鵬薬品工業株式会社様
協和発酵キリン株式会社様
谷田部二郎様
山中葉子様
ほかの皆様

本当にありがとうございました。

皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

ご来賓、ご講演者の皆様をはじめ、牧野徹先生、丹呉泰健先生、細川恒先生、厚生労働副大臣 橋本岳様、秘書 藤村健様、山内千里様、番匠幸一郎様、経済団体連合会 事務総長 久保田政一様、専務理事 濱厚様、総務本部 統括会員主幹 井ノ川正明様、経済同友会様、日本商工会議所 専務理事 石田徹様、総務部長 山内清行様、公益財団法人がん研究会有明病院 病院長 山口俊晴様、公益財団法人がん研究会 常務理事 榎山博様、募金課の皆様、公益財団法人がん研究会がん研究所 副所長 石川雄一様、横浜市文化観光局MICE 振興課長 荒木慎二様、係長 中尾祐次様、がん撲滅横浜市議員連盟 会長 田野井一雄様、横山正人様、日本製薬団体連合会 理事長 木村政之様、総務部長 増田敏美様、一般社団法人生命保険協会 代表理事・副会長 佐々木豊成様、総務部担当部長 宇田川俊秀様、TOTO株式会社 上席執行役員 小山田誠太郎様、日本生命保険相互会社 調査部担当部長 加藤亮様、飯島貴之様、弁護士 高橋淳様、第54回日本癌治療学会学術集會会長 中野隆史様、弁護士 加藤恒也様、備前焼作家 奥本丸味様、中見理嘉様、岡田里香様、株式会社コングレ 鈴木規史様、恩田南様、八木直之様ほか、あえてここにお名前を挙げておりませんが、がん撲滅サミット2016開催にあたり、ご尽力いただきましたこと心より感謝申し上げます。引き続き、がん撲滅サミットをご支援いただけますと幸いです。

がん撲滅サミット2016実行委員会一同
(2016年10月5日現在。敬称略・順不同)



中見利男著、伝奇時代小説『天海の暗号』絶体絶命作戦 下』より

関ヶ原の戦い前夜。石田三成の謀略により、西軍の大軍勢が丹後田辺城に攻め込むという報に接した細川幽齋は落城を覚悟。家臣を城から逃し、侍女、村人、下働きの者たちを含めて、わずか五十二人の手勢とともに城と運命を共にしようと籠城する。

しかし東軍の徳川家康から送り込まれた少年忍者（九歳）の友海（ゆうかい）らが城内に潜入。

それは細川幽齋を救出するための『絶体絶命作戦』と名付けられた無謀な任務であった。

やがて三万五千人の西軍に完全包囲され、絶体絶命の危機に陥った丹後田辺城内で、自決をしようとする細川幽齋率いる五十二人の軍勢に対して一人、友海のみ逆に戦いに打って出ることを進言。恐怖にすくむ仲間たちに向かって彼は敢然と言い放った。

「人はの、人は生きるために生まれたんじよ。生きて生きて生きて生きて生きてきたんじよ。

殿さんも、女子も、武士も、忍びも、皆々生きるために生まれたんじよ」

「殿さん、おりたちが皆の者を生かす！ 死なせやせん。だから、だから、おりたちとともに戦うてくれ。

生きるんじよー！ 生きて、この城から出るんじよー！ 勝ってここから出るんじよー！」